

2 長期収支見通し

平成18年度の収支赤字3億8,500万円をピークをとして、以後の毎年度の赤字額はわずかながら減少するものの、平成25年度まで赤字が連続して、特に前半5カ年間は厳しい財政運営が予測されます。

1) 前期5カ年間の収支見通し

前期5カ年間の累積赤字は、10億9,300万円となり、基金の取崩し等による対応を余儀なくされ、平成22年度には残高が3億2,100万円まで減少し、厳しい財政状況が続きます。

2) 後期5カ年間の収支見通し

後期5カ年間の累積赤字は5,700万円で、平成26年度には黒字に転換し、収支均衡が図られるものと予測されます。

ただし、5年先以後においては、現在議論されている交付税改革及び歳入歳出一体改革等により、国の制度が大きく様変わりするものと思われる中で町財政の将来予測は極めて難しく、推計値は年を追う毎に相当な誤差が生じる可能性が高くなります。